

訪問リポート

ガラスの精密研磨加工を手がける(株)ミツル光学研究所(川崎市宮前区)は、半導体向けの製品展開を強化している。光学部材や液晶ガラス向けの加工で長年培った技術を用いた、TVA(Total Thickness Variation) 0・5μm以下を実現したキャリアアガラスをラインアップし、市場展開に注力している。

■半導体向けに工場の設備増強を図る
同社は特定顧客向けに半導体工程用サポートガラスの展開を2008年から開始し、汎用タイプを14年に製品化した。その後、16年に半導体メー

カーへ量産納入したことをきっかけに、パワー半導体市場の拡大の追い風も受け、半導体向け事業が伸長している。14年度までは、半導体向け事業は全体の5%未満であったが、21年度には13%に伸長し、22年度は20%以上に拡大する見通しだ。23年度にはさらに拡大し、以降は現在主力の車載向けカーアガラス事業と並ぶ主力事業へと成長する勢いだという。

ミツル光学研究所

これに伴い、工場の設備投資を積極的に進めている。同社の生産拠点は、本社事業所(川崎市宮前区)、秦野中井事業所(神奈川県中井町)、横浜工場(横浜市都筑区)、

た。秦野中井事業所は、4階建ての5575㎡の工場で1996年から稼働開始し、長らくFPDおよび車載向けの主力工場だった。さらに22年には茨城工場にも半導体向けの生産部門を設置し、23年度にかけて設備投資を実施する計画だ。

秦野中井事業所
利益を狙っていく(代表取締役社長の山邊英彦氏)という。

■後工程向け製品もアピール
毎年出展しているSEMI CON Japan

半導体向け事業が急成長

キャリアアガラスの市場展開に注力

茨城工場(関連会社のMJM)の4拠点。16年に横浜工場設備投資を行い、半導体向け生産拠点に特化した。21年度には、秦野中井事業所に半導体部材生産部門を設置し、設備導入を実施し

「22年度(22年11月期)も前年度を上回る好調な業績結果となった。18年度からは、不定期だった新卒採用も定期採用として実施できている。半導体向けでは、まだ市場形成が浅い分野での先行者

では、21年までは半導体用サポートガラス(前工程向け)を出品し、TVA・5μmという平坦度が注目を集めていた。22年の出展では後工程における半導体向けキャリアアガラスをアピールす

る。同社はその精密加工技術で業界トップクラスの平坦度を実現するが、キャリアアガラスでは、平坦度に加えて反りの精密管理についてもアピールしていく考えだ。キャリアアガラスの反り

密に管理することで、ユーザーの生産効率向上に寄与することができる。半導体製造におけるキャリアアガラスの展開により、業界随一の精密ガラス加工技術をアピールしていく。



の課題においては、顧客向けにカスタマイズされたガラス材料ごとに異なる管理が必要となり、従来はユーザーが作業工程で調整していく部分であるという。これを、同社が独自のノウハウを用いてガラス材料ごとの反りを精

